

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 24-007

PDCA	事務事業名	景観形成推進事業	部課等名	建設部都市計画課 都市計画担当	担当	林	
					内線等	446	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち 節： 第3節 うるおい空間の形成 基本施策： 2. 景観形成 単位施策： (2) 景観形成重点地区の整備 個別施策： ①景観整備の推進					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	景観形成重点地区内における景観形成推進のため、景観整備工事と景観形成に寄与する建築物等への助成を行う。					
	目的を達成するための手段・活動内容	良好な景観形成を図るため、景観形成重点地区内の建築物等の景観形成工事への助成を行う。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	R1年度	単位	
		①ふるさと景観づくり推進事業補助実施件数	3	10	0	件	
		②					
		③					
		事業費	3,600	17,978	5,210	千円	
		人件費	2,221	7,495	7,763	千円	
		総事業費	5,821	25,473	12,973	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	R1年度	単位	
	①補助実施1件あたりのコスト	1,940	2,547	—	千円		
	②						
	③						
	成 果	成果指標	29年度	30年度	R1年度	単位	
		①ふるさと景観づくり推進事業補助実施件数	実績値	3	10	0	件
			目標値	3	17	1	
②橋梁高欄の高質化延長		実績値	—	22	—	m	
		目標値	—	22	—		
		実績値					
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
	事業の評価・課題	C 景観づくり推進事業補助金の活用を促進するため、亀崎地区や岩滑地区において戸別訪問によるPR活動を行ったが、最終的に施主の都合やコロナウイルスの感染拡大に伴い施工業者の確保ができなかったことが要因で申請には至らなかった。 亀崎地区においては、地域の若者を中心に検討を重ね、地区の中心である仲町通りのまちづくり方針を策定した。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 良好な景観形成により、愛着と誇りを持って住み続けられるまちづくりを進めるため、今後も景観づくり推進事業の補助制度について、戸別訪問によるPR活動などにより周知を図る。また、今後の景観形成について地域の意向を伺い、協議会や活動組織と連携して進める。				
		令和2年度の目標	成果指標			目標値	単位
			①ふるさと景観づくり推進事業補助実施件数	目標値		1	件
				目標値			
			目標値				